

はだしのバレーボーラーと 出会って

「ケニア！ケニア！」
会場全体に突如沸き起こった大声援に、選手たちが思わず笑顔を見せる。
2010年11月3日、静岡県浜松市の浜松アリーナ。「2010女子バレーボール世界選手権」の第一ラウンド最終節、ケニア対チエコの一戦は、強豪チエコが2セットを連取し、迎えた第3セットも残りわずかとなっていた。身長2メートル近い選手がそろそろチェコに対し、ケニアの選手たちは170〜185センチ足らず。それでも、まるで山脈のような相手のブロックに果敢にスパイクを打ち込み、跳ね返されても必死にボールに飛び付く。劣勢にもかかわらず、最後までひたむきさを失わないそのプレーが、観客の心をひきつける。

敗戦後、コート中央に並び、笑顔で観客席に手を上げる選手たち。コートサイドでは、監督を務めた元シニア海外ボランティアの入澤秀寛さんが、彼女たちをすがすがしい表情で見つめていた。

「実力差はありましたが、選手は持っている力を出し切った。悔いはありません」
試合後、そう語った入澤さん。世界の強豪が集うこの大会にアフリカ代表として出場し、結果は第一ラウンド5戦全敗。それでもこの日、選手たちに

は会場中から温かい拍手が送られた。

選手時代は実業団で活躍し、引退後も日本リーグなどのトップレベルの指導者として輝かしい実績を残してきた入澤さん。ケニア女子代表チームの指導のきっかけは、09年11月から約10カ月間、ケニアの競技レベル向上のため、JICAのシニア海外ボランティアとして活動したことだった。

意気揚々と現地に渡り、高校生や実業団チームの巡回指導を始めた入澤さんを待っていたのは、日本では経験したことのない世界だった。ケニアでは、バレーボールは野外ではだしになっで行うもの。スコールのたびに練習を中断し、軒下で雨宿り。使えるボールの数も限られ、おまけに一度コートの外にボールが飛んで行くと、野外なのでどこまでも転がっていつてしまう。「これでは練習にならない」。初めは途方に暮れた。

選手が気付かせてくれた 大切な原点

「これは、ずっと日本の恵まれた環境にいた自分へのチャレンジだ」

自分にそう言い聞かせ、与えられた環境を受け入れながら持ち前の粘り強さで指導を続けてきた。特に、「日本ではスパルタ指導が当たり前だった」という入澤さんだが、ここではケニア人の気質に合わせ、常に明るく笑顔で練習できる雰囲気づくりを心掛けた。

元シニア海外ボランティア IRISAWA Hidehiro 入澤秀寛さん

粘り強い指導で、ケニア女子代表チームを率いてきた入澤さん(後列左)。選手12人の大会中の滞在費なども、入澤さんの尽力によって多くの日本の協力者が支えた ©FIVB



「ある日、練習メニューについて考え込んでいると、選手たちが『どこか具合が悪いの？なぜ笑っていないの？』と心配して声を掛けてくれたんです。真剣だったあまり、つい怖い顔になっていたのでしょう。自分は笑顔を忘れていたのかと、ショックでした」

以来、選手たちがのびのびと上達できるよう、遊びを取り入れるなど練習メニューにも工夫を凝らしてきた。その結果、特に力を入れて指導していたある高校の無名女子チームが全国優勝し、アフリカ大陸でも2位に輝く驚きの結果に。指導者として一躍注目を集めた入澤さんのもとには、3カ月後に世界バレー出場を控える女子代表チーム監督就任の話が舞い込んできた。

だが代表チームとはいえず、就任当初は練習開始時刻になっても数人しか集まらないこともあった。「だったら自らの行動で示そう」と、1時間前には到着し、ネットを張ってラインを引いた。そんな監督の姿を見て、選手たちの姿勢にも変化が生まれ、大会前には30分前に全員がそろって自主練習を始めるまでに。入澤さんを中心に、家族のような一体感がチームに生まれていた。

世界バレーに出場する12人は、当初いた24人から3度にかけて選別してきた。「日本でプレーしたい」。そんな強い思いで練習に励んできた仲間が、落選の宣告をする瞬間がつかかったが、選手たちは恨み一つ言わず、「一緒に

に練習できて良かった。監督、ありがとう」と礼を伝えてきたという。入澤さんは思わず選手の前で号泣した。

「ケニアでは、競技だけで生活できる選手なんて、まずいない。ただ『バレーボールが好き』という純粋な気持ち、力の源なんです。そんな大切な原点を、ケニアで教えてもらいました」

12人の奮闘は、日本で多くの共感を呼んだ。そして大会後、空港まで見送った入澤さんに選手たちはこう言った。「監督、もっと強くなってきます！」
今、入澤さんは、一回り大きくなった彼女たちが、再び笑顔で世界の晴れ舞台に立つ日を心待ちにしている。



「バレーボールは苦しいもの。これまでずっとそう考えていた自分に、ケニアの選手たちは本来のバレーボールの楽しさを思い出させてくれた」と入澤さん ©FIVB



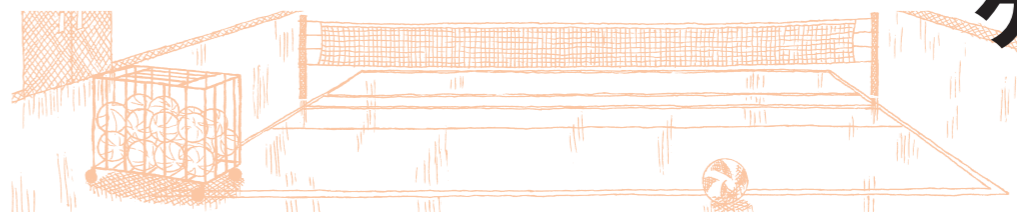
野外で開催されるケニアの高校全国大会の様子。この国では、日本で見られるような体育館を見つけることはまだ難しい

選手に日本の文化を体験してもらうため、入澤さん(最後列左端)の発案で禅寺を訪問。坐禅にも挑戦した



「“笑顔”でチームを強くしたい」

日本のバレーボール界で輝かしい実績を残し、その経験をケニアで伝えてきた元シニア海外ボランティアの入澤秀寛さん。昨年、日本で開催された「2010世界バレー」では、ケニア女子代表チームの監督としてコートに立った。



第22回 ゲンバの風